



資料館だより

No.32
2010年
9月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/shiryou/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

公害地域の今を伝えるスタディツアー2010 新潟・水俣病の地を訪ねて 43人参加

8月4日～8日、「公害地域の今を伝えるスタディツアー2010～新潟・水俣病の地を訪ねて～」を実施しました。学生や社会人、スタッフ、合計43名の参加となりました。



新潟水俣病資料館の前で

阿賀野川のそばで、新潟水俣病を学び、語らい、考えた4日間のようすをダイジェストでご紹介します。

〔1日目〕「新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館」に集合、塚田眞弘館長からレクチャーを受けながら館内を見学しました。



阿賀野川を見て、説明を聞く

〔2日目～3日目〕4班に分かれて、ヒアリングやフィールド見学に取り組みました。ヒアリングでは、患者さん、弁護士や支援者の皆さん、行政の担当者、水俣病

報道に携わった元新聞記者、水俣病学習を实践している小学校の先生など、さまざまな立場から新潟水俣病に関わっている方々に、いろいろなお話を聞くことが出来ました。2日日夜は水俣病医療に長年携わってきた関川智子医師のお話を聞きました。医師の立場から見た、新潟水俣病という公害病の特徴や患者救済のための課題を知ることが出来ました。

〔4日目〕最終日は、いよいよ発表交流会です。4日間を通じて得た体験や実感を、班ごとに発表しました。どの班も、「自分たちには何が出来るのか」と、積極的に考え、発表をおこないました。発表会には、ヒアリングやフィールド見学に協力していただいた方々も参加し、コメントをもらいました。

サイト <http://www.studytourjpn.org/>

ブログ <http://studytoura.exblog.jp/>

大阪市立西淀中学校 公害被害 語り部授業

6月24日に引き続き、7月8日、「西淀川公害の授業を実施しました。今回は3クラスに分かれて、公害患者が語り部の授業をおこないました。語り部は、西淀川公害患者と家族



語り部は池永さん（右端）

の会の永野千代子さん、池永末子さん、岡崎久女さんです。「病気になるって、できなくなったことは何ですか？」「西淀川の好きなおところはどこですか？」などの質問がありました。生徒たちはどのクラスも真剣に聞いていました。

全国大学史資料協議会 西日本部会のメンバー19人が来館

7月21日、全国大学史資料協議会西日本部会の皆さん19名の見学を受け入れました。

まず、スタッフの林から、西淀川公害とあおぞら財団、エコミューズの活動を紹介しました。



裁判資料の写真をみる見学者

また、森脇君雄（財団名誉理事長・西淀川公害患者と家族の会会長）より、裁判運動から財団を設立した想いや、エコミューズへの想いをお話しました。

裁判を終えた当初は、「資料館」というもののイメージを持ちづらかったそうです。しかし、歴史学者が資料保存の必要性を粘り強く訴え、研究会を重ねていくうちに、裁判や運動の資料を伝えていくことの大切さに気づき、「自分たちがやってきたことが『歴史』になるんだ」と、強く実感していったとのこと。参加者の皆さんからは、「和解金の使い途について、原告団のなかでどんな話し合いがされたのか？」「西淀川再生プランは、現在どれくらい実現しているのか？」などの質問が出されました。

もりもとまきの アーキビストの目

☆☆☆所蔵資料紹介☆☆☆



若い力で、伝えていく。
『四日市環境情報誌 なたね通信』

今回は、エコミューズに届くたくさんのミニコミ誌のなかから、「四日市再生公害市民塾」の20代の若手メンバーが発行している『なたね通信』(偶数月1日発行)を紹介しします。

四日市大気汚染公害は、1960年代に本格的に稼働、急速に規模を拡大した、発電所、石油精製工場、化学工場からなる四日市コンビナートの排煙によって引き起こされました。多くの住

民が呼吸器疾患に苦しみ、小学校には「うがい場」が設置され、児童たちが一日6回のうがいをを行うほどでした。

「四日市再生公害市民塾」は、こうした公害の経験を風化させることなく、後世に教訓を伝えていこうと活動している市民グループです。その若手メンバー

の取材・編集による『なたね通信』の誌面は、「語り部養成プログラム」や「四日市公害を学ぶスタディツアー」の企画・実践報告、また地元特産の小女子(こうなご:イカナゴの別称)漁に同行取材、そして市内企業のヒット商品をレポートと、



若い感性が光る

とてもアクティブ。

次世代の若者たちが、公害の記憶・まちの記憶を語り継ぐためにチャレンジする姿が、いきいきと伝わってくるミニコミ誌です。

ブログ版 <http://aozorabsw.exblog.jp/i11/>

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



エコミューズのホームページ 新しくなりました

<http://www.aozora.jp/ecomuse/>

資料紹介やブログがありますので、ぜひのぞいてみてください。見やすくなったかな?コメントなどお待ちしております。

西淀川図書館にエコミューズから出展

「西淀川の昭和 写真展」

昭和ひとけ台の工場の写真、家族のピンナップなど懐かしい写真

●会期 9月1日(水)~10月31日(日)

●会場 西淀川図書館(JR東西線「御幣島」駅下車 ①出口スグ)

【会期中イベント】9月18日(土)午後2時~3時

「西淀川でキャンドルナイトします! 廃油キャンドルを作ろう」

お申込みは西淀川図書館(06-6474-7900)まで。

大阪歴史博物館特別展

「新淀川100年 水都大阪と淀川」

エコミューズ所蔵の写真資料が、歴博で展示されます!

●会期 9月18日(土)~11月15日(月)

●会場 大阪歴史博物館6階 特別展示室

[最寄駅]地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車 ⑨号出口前

●開館時間 午前9時30分から午後5時まで(火曜日休館)

ただし金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

編集後記

2009年4月からエコミューズの資料整理スタッフとして働いていた田尻悠太さんが、このたび、就職が決まり、エコミューズでの勤務は7月までで終了となりました。上記ホームページのリニューアルは田尻さんによるものです。おかげさまでよいサイトができました。(Y)

資料館だより No.32

2010年9月号(隔月1日発行)

発行所 あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)

連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F(〒555-0013)

TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885

Email: webmaster@aozora.or.jp

<http://www.aozora.or.jp/shiryou/>

お知らせ

エコミューズ活動資金
【ハモン基金】

寄付協力をお願い

エコミューズを支えてください。あなたの寄付金は青空へとつながります。

●寄付の方法

郵便局からお振込いただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。

【口座番号】
千円
【二口】十万円 / 一万円 /

0124893

【加入者名】あおぞら財団
※通信欄に「ハモン基金への寄付」とご記入ください。一口の金額はお選びください。

ボランティア隊

「エコミューズ★」募集

あなたも「エコミューズ★」に入っちゃおう! 資料整理や展示、イベントの手伝いなど、活躍の場がいっぱいです。交通費●実費支給(上限2000円) どうぞお気軽にお問い合わせください。



エコミューズの活動は
Hamon基金によって支えられています。



エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害・環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材・ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください

開館 ●月曜日、金曜日(祝日は休み)
10:00AM~5:00PM [要予約]

利用 ●図書の出し入れ期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ